

審査請求の構え

生活保護基準引き下げに憤り

安倍政権は一日から生活保護基準の引き下げを強行しました。食費や光熱費など日常生活費に充てる生活扶助費を最大5割引き下げます。削減対象は生活保護利用世帯の7割近くに及びます。今でも余裕がないのに。利用者らは憤り、審査請求する構えです。

(仁田桃)

関東で複数の子どもを育てる一人親世帯の女性(38)は「当事者の声を無視している」と語気を強めます。2015年ごろから生活保護を利用しています。今月から段階的に生活扶助費が切り下げられ、月あたり約1万円の減額に。これまで以上に家計に柔軟性がなくなってしまう、急な出費が大変だといいます。

「学習支援費が実費請求になり、工面に困って

他の扶助も改悪

扶助の一つ、学習支援費は月ごとの定額支給でしたが、今月から実費請求に改悪されました。

女性は一学校関係の出費で、今日は300円かかった、800円だったと、先に先にお金を食

利用者「今でも余裕ないのに」

後からお金が支給されるのを待つ余裕なんてない」と憤ります。

女性は教材費などが書かれた学校のプリント類を細かくコピーして毎月ケースワーカーに提出し



女性は常に生活保護制度の運用引きが書かれた生活保護手帳を携帯して、時間のあ

ています。絵画展への出品料200円、林間学校代約1万円…。「コピー代がかさみます」と苦笑します。

お風呂は冬場に週一回沸かし、一人では入らずにまとまって短時間で入浴します。あとは水シャワーです。

買った物は値段が下がるまで待ちます。女性は品物の安売りの底値が頭に入っています。「底値以

上の値段のものは食べてはいけないと思っ

保護を利用し始めたころ、精神のバランスを崩し、一時期は字の読み書きができなくなっ

「数年かけて、やっと元に戻ってきた感じ

受給日近くは残金が数十円になる日が続いており、「急な出費に対応できない」と話します。

男性は「趣味のカラオケは回数減らしまし

全国生活と健康を守る

食べて寝るだけ

東京都内で生活保護を利用する一人暮らしの男性(49)は「いまの額でも食べて寝る以外のことができない生活だ」と訴

「利用者は葛藤を抱えながら立ち上がり、声を上げています。多くの個人・団体のみなさんと共に、国民の人権と、平和のうちに生きる権利を守る生活保護制度への改善を求めて全力を挙げます」と強調しました。